

第4回 近畿圏広域計画検討会議

～各委員からの主な意見～

日 時:平成20年5月13日(火)15:30～17:30

場 所:ホテルニューオータニ大阪 2階 翠鳳の間

和歌山県知事 仁坂吉伸

- ・ 主要プロジェクトは、和歌山から見ると若干物足りない部分がある。関西のエリアを小さく捉え過ぎると東京に負けることになる。
- ・ 大阪湾ベイエリア再生プロジェクトの中に関西国際空港という虎の子の機能を活かした構想を盛り込むべき。
- ・ 水と緑のネットワークについては、まさに小さい関西を表している。和歌山や奈良の南部、北近畿などには、本場の自然が多く残っており、これらを活かすとともに「緑のヒンターランド」として関西みんなで享受できるようにしてはどうか。
- ・ 広域生活圏については、大都市と広域生活圏を繋げなければ関西は生きてこない。大都市と地方中心都市、地方中心都市とその周りの都市が一体となって繋がることのできるのが関西の強み。
- ・ 産業拠点は大都市だけで収束するものではなく、地方都市でのミニ産業集積の可能性も追求するべき。
- ・ 「新たな公」については、それぞれの主体が自己責任を持つことが大事であり、民の力を借りることによって官が説明責任を負うことをぼやかすことになりかねないため、この概念を中心にすることは反対。

奈良県知事 荒井正吾

- ・ これまでの全国総合計画では国土の均衡ある発展がベースになっているが、そのベースが失われている中、広域地方計画ではどのように埋めようとしているのか。
- ・ 小泉元首相が「地方でできることは地方で、民でできることは民で」と言われていたが、広域地方計画でどのようにできるのか、どういう実行力があるのか。また、各省は縦割りで、各地域は横割りの中、どのようにして交わっていくのかが見えない。
- ・ 近畿は新幹線、名神が軸となりその周りが発展してきたが、ろっ骨を形成するのが遅れて軸から離れた部分が発展せず、地域格差が生じている。地域格差を埋めるにはどうすれば良いのか、といった軸の議論が示されていない。
- ・ 関西国際空港の機能を広く均てんさせる観点が薄い。上海のように空港に繋がるリニアがあるかどうかで空港の機能が大きく変わるため、空港へのアクセスの観点が必要。
- ・ 日本の経済は、輸出型で発展してきたが、これからは内需型で発展させることが大事であり、そうしなければ地域は自立できない。奈良は、消費や雇用など大阪に依存しているのが実態であり、内需型のことについてもう少し触れるべき。

兵庫県知事 井戸敏三

- ・ プロジェクトのそれぞれが抽象的で具体事業、推進方策が見えない。見せ方には工夫が必要であり、もう少し具体性が欲しい。
- ・ 森林や農地、水産など第1次産業について散らばって書かれているが、明確にプロジェクトとして位置づけられていないことを懸念する。
- ・ 以前、瀬戸内海の再生を提案していたが抜け落ちている。また、森林資源が枯渇していることに対する施策が抜けている。さらに、企業が農業に関心を持ち新たな取り組みが行われているが、そういった動きに対するアプローチも書かれていない。
- ・ 舞鶴港と敦賀港の活性化も重要だが、境港も入れるべき。また、環日本海を一体化できるような道路網の整備や物流ルートの確立、山陰本線の活性化等とのかかわりについても強調が必要。
- ・ 小規模集落の生き残りには、小規模集落とタイアップできる都市部をマッチングさせることが重要。第2のふるさと、都市部での農産物の販売場所の確保といった相互の連携がないと生き残れない。
- ・ 交通ネットワークでは、ぶつ切りになっている料金体系が問題で、関西の高速道路には料金所の関門が多く、足し合わせると高速料金が東京に比べて高い。特に明石海峡大橋については大きな問題。
- ・ 港湾の一体管理は記載されているが、3空港の一体管理も検討すべき。
- ・ 広域地方計画では、広域連合の動きも整理が必要。

大阪府知事 橋下徹

- ・ この計画で府が具体的に何をしたらよいかよくわからない。現在、財政再建に取り組んでいるが、最終的にいきつくところは府庁の発展的解消と感じている。
- ・ 育児支援など、市町村にできることは予算と権限を市町村に渡し、市町村にやってもらう。医療救急情報システムなど市町村ではできないことは、大阪府が取りまとめ役となって進める必要がある。
- ・ 個別具体の文化やライフスタイルの問題は府や市町村に任せて頂いて、関西国際空港、伊丹空港、神戸空港の一体的運用や、淀川左岸線・第二名神の整備、淀川水系のダムの問題など府県でできないことは大局的な見地から国にお願いしたい。
- ・ 先日行われた御堂筋オープンフェスタは、近畿地方整備局が地元の商店街と交流を深め地元ニーズを的確に把握していた、だからこそ大阪市及び地元の人とタッグを組んで成功を収めた。
- ・ 国にやっていただきたいことは山ほどあり、そこは国に力をお借りしたいが、地域にはいろいろな問題があり、具体的な方策について一律に決めていただいても府が何をしたら良いか分からない。

神戸市長 矢田立郎

- ・ 将来の暮らし方など住まいの観点を入れたほうがよい。
- ・ 人口減少や高齢化が進む中、規模の大きい住宅へ転換するといった発想を関西から発信してはどうか。住居の規模が変わると、調度品、衣服、食のレベルなど各方面への波及効果が期待できる。こういった内需発展型といった内発的なことに対する提案もあって良い。
- ・ 緑の保全、森づくりは、環境問題、CO2の削減の観点から重要で、積極的に緑を守っていくべき。また、都市緑化も必要。
- ・ 世界的にはバイオエネルギーの開発が進められているが、輸入食材の問題などから自給率を高めていく取り組みが重要。また休耕田を活用して多収穫性があり飼料となる農作物などをつくっていくことも大事なポイントになってきている。
- ・ スーパー中枢港湾の指定を3つの地域が受けたが、全国的な均衡の状態の再整備では、スーパー中枢港湾としての意味づけが変わってくるのか。どのような整理をされているのか確認したい。
- ・ 福祉・医療の関係では、都市部と都市部以外に分けて三次救急を考えた場合、近畿全体で拠点等をどのように配置するべきかの検討が必要。

近畿ブロック府県町村会会長 岡井康徳（奈良県河合町長）

- ・ 近畿の町村には、農山漁村やベッドタウンなどそれぞれ特色がある。
- ・ 大都市と中核市の連携を図り、今後の町村のあり方を考えていきたい。小さな町村には歴史と文化があり、こういった町村を忘れず、関係づくりをお願いしたい。

福井県知事（代理：副知事 旭信昭）

- ・ 圏域外との関係も強化すべきであり、圏域の外側に向かう北陸新幹線のようなインフラ整備をし、関西エリアの求心力の強化を図る戦略が必要。
- ・ 福井には15基の原子力発電所があり、現在は発電だけではなく、「エネルギー研究開発拠点化計画」により研究開発の拠点へと展開しており、また、次世代エネルギーの集積を目指すクールアースの研究も実施している。このようなことも計画に位置付けて欲しい。
- ・ 関空や阪神港などの物流拠点がある近畿はアジアゲートウェイの中心的役割を担うのにふさわしい圏域である。本当の意味でアジアゲートウェイとなるためには関西のどこからでも世界各地にアクセスできるよう、日本海側の港湾や道路ネットワークの整備が重要。

京都府知事（代理：副知事 猿渡知之）

- ・ 舞鶴港については、コンテナの定期船は一定のロットが集まらないと運航してくれないため、今後ロットを集めることが必要。北海道の小樽から島根県の浜田港等まで日本海側には港がたくさんあるが、一定の選択と集中が必要であり国のリーダーシップの下戦略を作りたい。
- ・ 農山漁村の活性化について、中国・インドの食生活の変化等に伴う世界的な食糧問題や輸入食品の安全の問題などを踏まえると、食料の自給率確保をもっと掲げて、情報システムの導入や知識集約化など産業としての農業を考えるべき。
- ・ 医療について、救急医療体制も重要であるが、経常の医療体制の下での医療資源の適正配分も必要。
- ・ 情報通信インフラや情報産業のあり方についても触れるべき。
- ・ 以上については、国の強力なリーダーシップの下、一定の戦略を府県等とともに作っていただけるようお願いしたい。

滋賀県知事（代理：政策監 上原正男）

- ・ 水と緑のネットワークについて、植林事業の推進が重要。水源かん養機能の強化を主要プロジェクト7(2)③に書いていただきたい。
- ・ 琵琶湖・淀川流域圏を健全な姿で次世代に引き継ぐために、国においても琵琶湖・淀川の再生を国土管理のモデルとして進められている。主要プロジェクト7(1)には、水文化の継承、生態系の回復、原風景の保全といった文言を入れていただきたい。

三重県知事（代理：政策部総括室長 竹内望）

- ・ 東京圏に対抗する魅力ある圏域のためには、近畿と中部という二大都市圏の連携が重要。これに関連して、リニア中央新幹線の東京大阪間全線開通についても配慮して欲しい。
- ・ 紀伊半島の振興の基盤として交通ネットワークの整備が必要であり、東海南海連絡道について何らかの計画への位置づけをお願いしたい。

鳥取県知事（代理：副知事 藤井喜臣）

- ・ 鳥取と大阪が車で2時間半に短縮されることでさらに繋がりが深まり、また、山陰側の鳥取豊岡宮津道路や山陰道の整備が進めばいろいろな役割が出てくるため、広域的な視点で計画づくりをお願いしたい。
- ・ 山陰海岸のジオパーク構想を兵庫県や京都府と共同で取り組んでいるように、日本海側の観光ルートも考えていただきたい。
- ・ 兵庫県の北部は鳥取県が第三次医療圏を担っている部分もあり、県境を意識せず検討してほしい。

徳島県知事（代理：副知事 木村正裕）

- ・ 本四架橋のように、既にできているインフラをどのように活用するかが重要。通行料金が低いということは、四国の農産物の輸送にも支障をきたし、近畿圏の自給率を上げるという観点からも問題。ネットワークの強化にも、料金の見直しなどが重要。

京都市長（代理：副市長 星川茂一）

- ・ 産業、観光、文化などさまざまな要素に関わりのある景観について、もう少し触れるべき。
- ・ 電線類の地中化は、防災、バリアフリーの観点からも重要であり、主要プロジェクト8の大都市連携による中枢機能確保の中に記載して欲しい。

堺市長（代理：副市長 指吸明彦）

- ・ 都心居住では核家族化の弊害が生じており、主要プロジェクト8の大都市連携による中枢機能確保の中で3世代が住める住宅を国策として打ち出せないか。
- ・ 首都圏のバックアップ機能について、大都市連携、特に政令指定都市の連携によるバックアップ機能の強化という表現をしてほしい。

関西広域機構会長 秋山喜久（近畿圏広域計画検討会議会長）

- ・ 国がすべきもの、地方がすべきもの、地方に対して国が支援すべきものを明確にし、メリハリの利いた計画にしたい。
- ・ 近畿という範囲を幅広く捉え、福井、三重、徳島、鳥取などとの連携を保つことが重要。
- ・ 空港整備については3空港問題がある。また関西国際空港の2期完成は大きなテーマ。
- ・ ゲートウェイとして、大阪・神戸は既にスーパー中枢港湾として連携しているが、堺や和歌山なども含めてポートオーソリティのような統一的な扱いが必要。太平洋側だけでなく環太平洋側のロシアとの関係が重要になってくるので日本海側の港湾の整備も必要。
- ・ 道路整備については、ミッシングリンクの解消として淀川左岸線の延伸、名神と湾岸線の連携、湾岸線8期9期の整備も重要であるが、それと同時に料金体系などソフト面の施策についても西日本高速道路会社や阪神高速道路会社と相談しながら検討していくことが必要。
- ・ 都市間連携については、大都市と地方中心都市、その周辺都市との連携が重要。
- ・ 農業問題については、緑の確保だけでなく、将来の食料自給や産業としてどう育成していくかなどを考えるべき。
- ・ その他、瀬戸内海の再生、日本海側の道路の整備、日本海側と太平洋側を結ぶ道路整備や北陸新幹線など南北を意識することが必要。
- ・ 新たな公については、自らのことは自らの責任でやるのが原則で、これは国でやってほしい、これは地方に任せてほしいといった責任のありかをきちんとするといった見せ方もある。
- ・ 一般の市民に公の意識を持ってもらうことが重要。